

【体験談】水素自動車を運転してみました！

今年4月より浪江町産業振興課に配属されました渡邊です！今号では、棚塩産業団地で来年度より製造が予定されている「水素」についてご紹介します。

水素は、棚塩産業団地に整備される『福島水素エネルギー研究フィールド』にて製造されますが、「そもそも水素ってどのように活用されているの？」と思う人も多いかもしれません。



トヨタ「ミライ」



ホンダ「クラリティ・フューエルセル」

水素の活用方法の1つが、水素を燃料に走る「燃料電池自動車（通称：FCV）」での活用です。

燃料電池自動車は、燃料の水素と、車の周りから取り込んだ酸素を反応させることで発生する電気です。

しかも、車から排出されるのは、水素と酸素の反応により生じた水だけで、二酸化炭素は排出しません。燃料電池自動車は、地球上に大量に存在する水から作られる水素と酸素で走る、環境にとってもやさしい車なんです！

その水素を、福島水素エネルギー研究フィールドでは、1日あたり「燃料電池自動車約560台分」製造することができます。

燃料電池自動車は、トヨタの「ミライ」やホンダの「クラリティ・フューエルセル」があり、今回、その実体を調査するべく実際に運転してみました！



「運転の様子」



「車の「燃料電池」の表示」

「水素充填機」

運転席に座りエンジンをスタートさせ、アクセルを踏むと、静かに、そしてなめらかに走り始めました！ハンドル操作や乗り心地も良く、また、走行距離（フル充填で700キロ前後走行可）や燃料充填時間（約3分）は、一般的な車とあまり変わりません。

今後も水素ステーションが増えれば、実用性も環境性能も非常に高い車であると思います。

今回の運転で、水素が持つ可能性やエネルギーに未来を感じ、とても感動しました！

これからも、水素に関する利活用と可能性について、様々な視点から紹介してまいります。よろしくお願いいたします！

発行：浪江町 産業振興課

UR都市機構 浪江復興支援事務所

電話番号 0240-34-0248

電話番号 0246-38-8044

令和元年6月19日発行 第4号

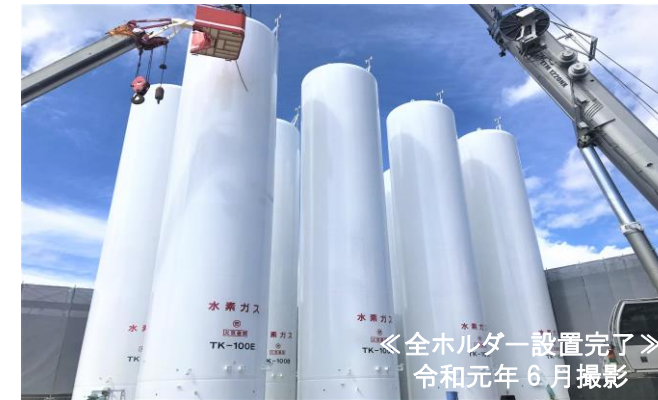
棚塩産業団地だより

浪江町棚塩産業団地の整備に関する情報をお届けします。



浪江町イメージアップキャラクター「うけどん」

水素を貯蔵するホルダーの設置が完了しました



「全ホルダー設置完了」
令和元年6月撮影

水素エネルギー研究フィールド（通称：FH2R）の水素貯蔵エリアにおいて、製造された水素を貯蔵するホルダー（高さ17.5m、直径3.5m、重量20t）全8本（4月に2本、5月に3本、6月に3本）の設置が、6月18日に完了しました。

ホルダーは名古屋市の工場で作製され、マルチトレーラーで2日間かけて、浪江町まで陸路で運搬し、現場では220tの巨大なクレーンで据え付けました。



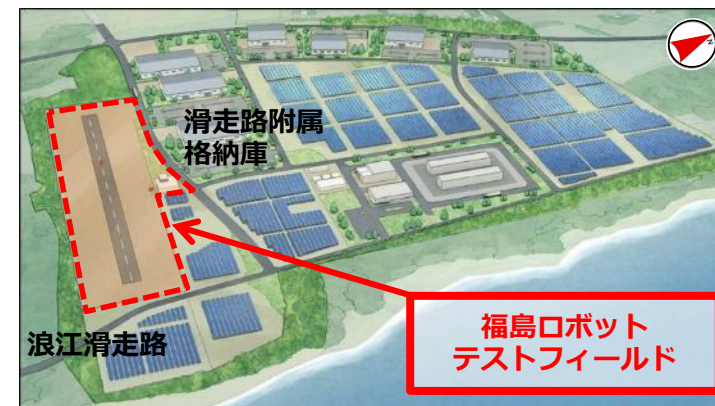
「ホルダー設置状況」
令和元年4月撮影



「ホルダー運搬状況」
令和元年4月撮影

福島ロボットテストフィールドの滑走路等を着工しました

福島ロボットテストフィールド浪江滑走路及び滑走路附属格納庫は、2019年6月から工事に着手しました。



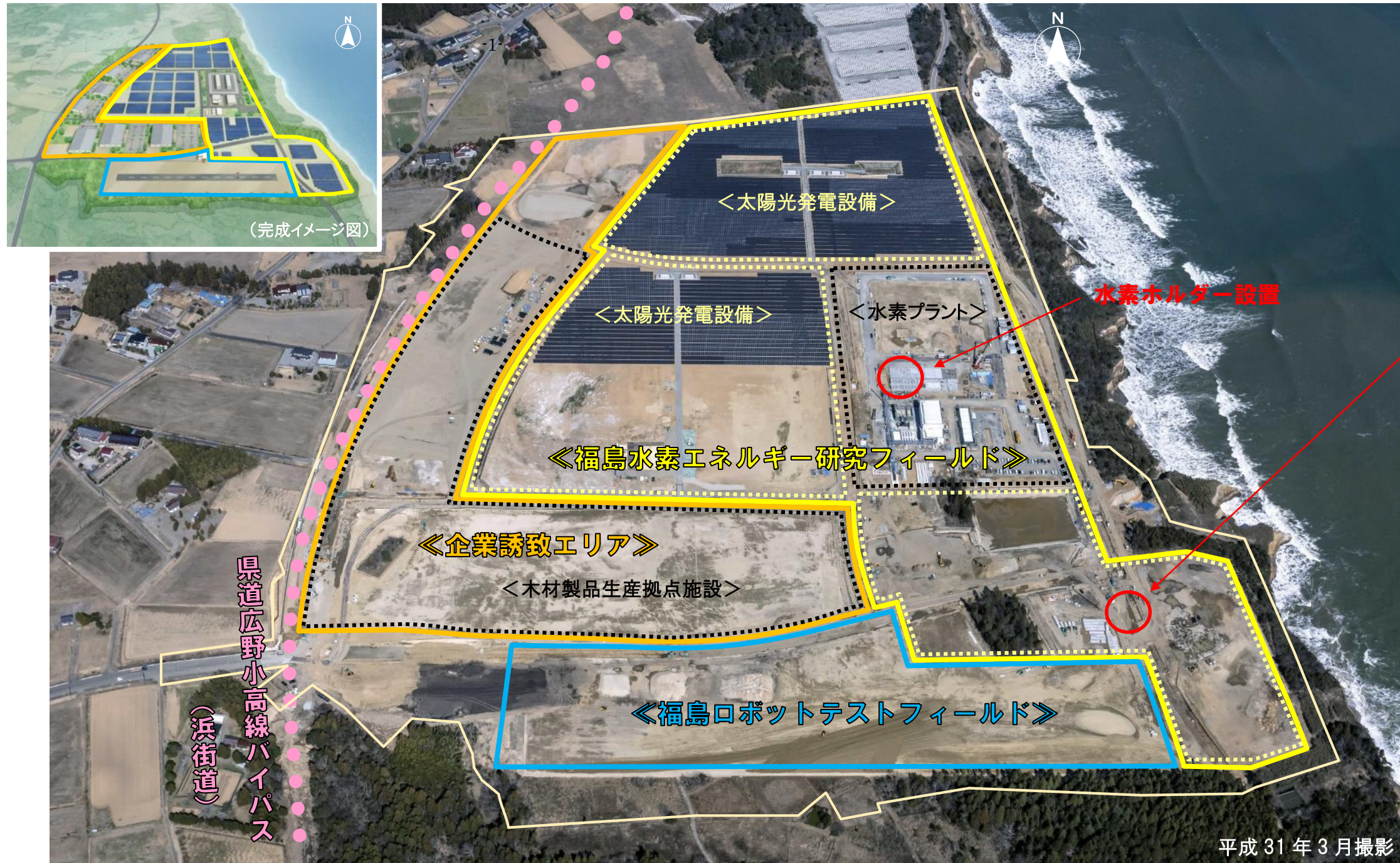
浪江滑走路は、全長400m、幅20mの無人航空機用滑走路として整備し、飛行訓練や操縦訓練に使用する施設です。

また、滑走路附属格納庫は、滑走路と直結する整備室、一帯を見渡せる管制室やアンテナ設置台を備える施設です。

両施設共に2019年度末の開所に向けて安全に施工してまいります。

棚塩産業団地の工事進捗状況をお知らせします

棚塩産業団地では、ドローン（無人航空機）を使って定期的に空から現場の状況を撮影しています。



＜基盤整備工事が進んでいます＞

＜路面排水工の施工状況＞
令和元年 5 月撮影



平成 30 年 4 月の本格着工以降、基盤整備工事においては、整地・排水・道路の各工種工事が順調に進められております。現在の主な工事は、道路側溝（路面排水工）の設置を行っております。今年の夏ごろから順次舗装工事に着手する予定です。基盤整備工事全体は、今年度末の完成をめざして引き続き頑張ります。

＜福島水素エネルギー研究フィールド＞

再生可能エネルギーを利用した水素エネルギーシステムを、NEDO が整備します。
ここで製造する水素は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックを始め、様々な場面で活用が見込まれています。

＜福島ロボットテストフィールド＞

（滑走路・滑走路附属格納庫）

無人航空機用滑走路として、飛行試験、操縦訓練に使用する施設です。

福島県が本産業団地と南相馬市の 2 か所に滑走路を整備し、2019 年度の開所を予定しています。

＜企業誘致エリア＞

イノベーション・コースト構想関連企業を誘致し、雇用創出を図るエリアを整備します。

エリアの一部において、木材製品生産拠点施設の整備を予定しています。

● 東京オリンピック・パラリンピックでの水素利用

2018 年 12 月に開催された、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会で環境対策などを協議する有識者会議において、聖火台や聖火リレーのトーチに水素などの再生可能エネルギーを使用するよう提言されました。

会議のなかでは、浪江町（FH2R）で製造された水素を使う案も意見として出されています。

● 福島県内における水素ステーション整備状況

福島市と郡山市で移動式水素ステーションが運用中であり、2019 年 3 月にはいわき市に東北で 2 例目となる商用定置式水素ステーションが開所しました。また、南相馬市と郡山市にはコンパクトな水素ステーションが整備され、県内各地で水素活用の取り組みが進んでいます。